

秀吉の越中出陣前後の婦負

しらとりじょう おおがけじょう あんようぼうとりて
 —白鳥城・安田城・大塔城・安養坊砦、そして富山城—

はじめに

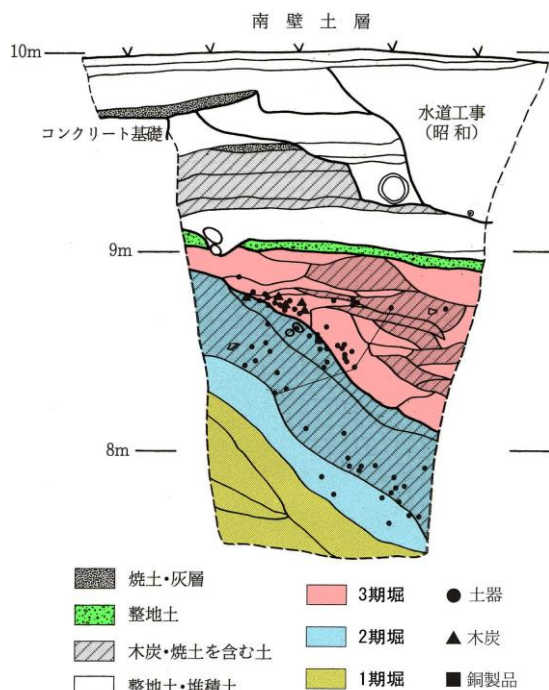
天正13年(1585)、羽柴(豊臣)秀吉は富山城主の佐々成政を討つための越中出陣、世にいう「佐々攻め」を断行しました。前田利家が先遣隊1万人を連れて呉羽丘陵に到着し、秀吉の本陣として白鳥城を整備した際に、安田城は支城の一つとして整備されたと考えられてきました。このような安田城と密接な関係をもつ城や砦が富山市域にも残されています。佐々攻めについては、10万人に及ぶ大軍をもって威圧された富山城の成政が剃髪して秀吉の本陣に赴いて降参を願い出た結果、秀吉は助命して新川一郡を安堵し、自身の圧勝を示すために富山城を破却して帰路についたと理解されることが一般的です。しかし、近年の戦国史研究ではこのような通説的理解の再検証が始まっています(萩原2010a・b、2012、2016など)。本展では、戦国史の最新の研究成果を積極的に取り入れながら、呉羽丘陵周辺の佐々攻めにかかわる城や砦について発掘資料や縄張り図等をとおしてご紹介します。

秀吉の越中出陣前の婦負—安田城・富山城—

安田城 方形基調の本丸は、曲線基調の二の丸および右郭と主軸が異なります。このことから、前田利家の整備以前に城が存在した可能性が高いと考えられています。

富山城 富山城址公園内の試掘調査で堀が確認されました。その最下層の堆積(図の1期堀)は自然に埋没したものでした。その上部の自然堆積層(図の2期堀)には、焼けた木材や粘土塊、被熱で変色/剥離した礫など火災の焼失廃材が炭化した穀類や多数の土器と共に投棄されていました。土器の年代から、越中守護代の神保長職が築いた富山城が富山城址公園内に存在したことが確定しました。

ここで、『新編会津風土記』巻五 長尾景虎書状写〔永禄3年(1560)〕4月28日付の記載が注目されます。「去月廿六、不図越中国出馬候処、同晦日夜中、神保在城号富山地自落、彼国西郡号増山地利へ相移候条」と記載されており、2期堀に投棄された焼失廃材は越後の長尾景虎(のちの上杉謙信)が永禄3年に富山城の神保長職を攻めた(第一次越中出馬の)際に、長職が自ら火を放って敵方に居城



遺物出土層位は3期堀に属するように見えるものも多いですが、これは投影方向のズレによるものです。ほとんどが2期堀に属し、3期堀に属するものはわずかです。

富山城址公園内の試掘調査で確認された中世富山城の堀の土の堆積状態(富山市教委2004から作成)

を使わせないようにした自焼没落（中澤 2001）を示す物的証拠と考えられます。長職は増山城（砺波市）に追われたので、焼失廢材が堀に投棄されたのは自焼没落後、一向一揆勢によって元龜3年(1572)に占拠されるまでの間と考えられます。以後も戦乱が続くなかで神保長住や佐々成政といった織田方の武将が入城し、再整備されました。その城内には井戸があり、堀もそのまま使われていましたが、1・2期堀と異なり、最終的には意図的に埋められました（図の3期堀）。3期堀の埋土は、越中出陣の戦後処理として秀吉が下した富山城の破却命令が実際に遂行されたことを示す証拠です。なお、少なくとも長職時代の富山城は2本の堀が直交し、主郭と副郭の2つの郭からなることが判明したものの、詳細構造を推定するまでの情報は得られていません。副郭では鍛冶や鑄造が行われていました。

秀吉の越中出陣後の婦負一白鳥城・安田城・大峪城・安養坊砦一

白鳥城 呉羽丘陵最高峰の城山山頂（標高約145m）にある山城です。秀吉の越中出陣以前から度々使われ、長職と景虎との攻防時や秀吉の越中出陣前後にも整備されたと考えられています。一部で試掘調査が行われた（富山市教委1981・1983）ほか、佐伯哲也氏によって縄張り図も作成されています。土塁や空堀、虎口6ヶ所が良好に残り、防御機能が高い構造とされています（佐伯1998）。本展では、佐伯氏による縄張り図等を紹介します。

大峪城 五福小学校跡地にある平城です。本展では、これまでに蓄積した調査所見や古絵図の情報も考慮した、大峪城の推定範囲や郭の配置の復元図を紹介します。

安養坊砦 前田利家は越中出陣に先立ち、白鳥城・安田城・大峪城を整備したと考えられています。この他、「末森記」には「安養坊坂」上にも砦が築かれたとされています。大峪城から約1.1km北側の郭沿いの尾根で戦国時代の土器小片が発見され、測量調査で郭が複数確認されています（富山市教委2012）。本展では、安養坊砦の測量図を紹介します。

おわりに

本展では、戦国史の最新の研究成果を積極的に取り入れて考古学的情報を解釈しました。今後も学際的な検討を重ねることで、より豊かな地域史像を復元できると考えられます。

謝辞 本展の開催にあたり、富山県埋蔵文化財センター・富山市郷土博物館のご協力をいただきました。

主要引用・参考文献

- 佐伯哲也 1998 「白鳥城の縄張りから読取る佐々征伐について」『富山市考古資料館報』No. 34
佐伯哲也 2004 「中世富山城について」『富山城跡試掘確認調査報告書』
佐伯哲也 2011 『越中中世城郭図面集Ⅰ—中央部編（富山市・中新川郡・射水市）—』 桂書房
高岡 徹 2016 『戦国期越中の攻防—「境目の国」の国人と上杉・織田—』 岩田書院
富山県埋蔵文化財センター 2006 『富山県中世城館遺跡総合調査報告書』
富山市教育委員会 1981・1983 『白鳥城跡試掘調査概要』・『白鳥城跡試掘調査概要（Ⅱ）』
富山市教育委員会 2004・2006・2009 『富山城跡試掘確認調査報告書』
富山市教育委員会 2012 「茶屋町東遺跡（測量調査）」『富山市内遺跡発掘調査概要Ⅶ』
富山市郷土博物館 2010 『秀吉 越中出陣—「佐々攻め」と富山城』
富山市郷土博物館 2013 『戦国越中の覇者 佐々成政』
中澤克昭 2001 「城を焼く—自焼没落とその後—」『城破りの考古学』 吉川弘文館
野垣好史 2016 「考古学的成果からみた富山城下町の形成・変容」『中近世移行期 前田家領国における城下町と権力—加賀・能登・越中—』 城下町科研・金沢研究集会 実行委員会
萩原大輔 2010a 「天正年間中期の富山城」『富山史壇』第161号 越中史壇会
萩原大輔 2010b 「関白秀吉越中出陣に関する基礎的考察」『富山史壇』第162号 越中史壇会
萩原大輔 2012 「秀吉越中出陣をめぐる政治過程」『富山史壇』第167号 越中史壇会
萩原大輔 2016 『武者の覚え 戦国越中の覇者 佐々成政』
古川知明 2014 『富山城の縄張りと城下町の構造』 桂書房